

釈迦ヶ岳報告

小池正器

日 時：2015年1月18日

メンバー：L小池正、小池伸、宮本、神谷

釈迦ヶ岳の松尾尾根に行ってきました。前日降った雪のせいか、私の根性無しの車は予定していた駐車場まで入れず、2km位手前から歩きました。そのかわり登山口から雪を踏み、また、低山ながら変化に富んだルートだったので、雪山を充分楽しめました。詳しい山行報告は誰かに譲るとして、ハインリッヒの法則（1:29:300ってやつです）でいう「29」に近いトラブルがあったので報告します。

以下は当事者である神谷さん自身の報告です（一部小池にて修正）。

1 場所

下山中標高750m位の尾根上を少し外れ、尾根右側の斜面

2 発生時の状況

下山中15:30頃、雪・土混じりのやや傾斜がある斜面をアイゼン装着の状態ですべて降りようとしたところ滑落し5m下にある斜面の木に激突し止まった。その際、右側胸部（肋骨部）を強打する。

3 その後の対応

意識レベルは問題無し、右側胸部痛は強かったが擦過傷や出血は無く呼吸状態も落ち着いていたため、一部介助で滑落場所から平坦な場所へ移動し30分ほど様子観察。持参の鎮痛剤を内服し、症状が軽減したため下山を再開する。その後はショートロープで安全確保してもらいながら下山した。

4 事故の要因

- (1) 初めての雪山登山であり、雪山に必要な技術・装備の正しい使用方法（アイゼン・わかん・ピッケルなどの使用方法や正しい歩き方）、知識が乏しかった。
- (2) 自分自身でどこまで出来てどこからが出来ないのかということ、どの場所が滑落の危険性が高いのか、などといった知識が無い状況の中、一人で降りようとしたこと。
- (3) 体力・筋トレ不足（滑落発生時前から下肢の筋肉痛が強く歩行がおぼつかなかった）。
- (4) タイムロスさせてしまっていることへの精神的な焦り。

5 事故防止策

- (1) 普段から雪山登山に必要な体力作りを行う。
- (2) 装具の扱い方に慣れる。
- (3) 不安なときは単独で行動しない、アドバイスを受けながら行動する。

神谷さんの報告にあるとおり、夏山の経験はあるものの、冬山は初めてで、初登山靴、初アイゼン、初ワカンだったので、上部はショートロープでフォローしながら登りました。慣れない歩行で疲労していることはわかっていましたが、ある程度下ったのでもう良いだろうとロープを外し、しばらく行ったところでトラブルが起きました。

今回私の反省点としては、2点あります。まず1点目は神谷さんの疲労度を過少評価していたこと、2点目は、コミュニケーションは十分取っていたつもりでしたが、報告の4の(2)にあるとおり、「自分自身でどこまで出来てどこからが出来ないのかということ等といった知識が無い状況」で取るべきコミュニケーションとしては、結果的にまだまだ不十分だったということです。違った見方をすれば、神谷さんの我慢強さが私の想像力を超えていたということかもしれません。

今回は大事に至らず下山出来ましたが、一つ何かが悪ければ重大事故になる危険がありましたので報告します。本内容が何か皆さんの参考になれば幸いです。

以 上